

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>学外からの視点</p> <p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p> <p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>2023年から開始したため、まだプログラム修了で卒業した者が出ていない。また、企業等の評価についてであるが、本学の業務委託契約先である株式会社アールシーエーから「本プログラムにより、ただICT関連のツールを上辺だけ使ったのではなく、データとは何であるかを理解した学生が輩出されることが期待できる。また、SA制度によりただ教わるだけではなく教える経験を有する学生が、より高いスキルを身につけていることも期待できる。」との評価をいただいている。</p> <p>産業界において実際に業務に使われる実データの提供はまだ受けていないが、実データは本プログラム教育において重要であるため、今後、企業の実データ分析を授業に取り入れる予定である。現在は、本学学内で生成されたデータを用いて学生にデータ分析をさせている。また一例として、株式会社アールシーエーから、データの処理の際に必要なに応じてGoogleのSaaSアプリ群とMicrosoft365のアプリ群を柔軟に使い分ける教育手法などについて好意的な評価を得ており、引き続きデータ処理ができる人材を育成していきたい。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>学期末の授業アンケートでは、「総合的にみて、この授業は満足できるものでしたか。5段階評価:5(大変満足)～1(大変不満)」という設問に、「5」「4」「3」を回答した割合は96.9%であった。また「5」と「4」を回答した割合は73.8%であり、「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させることは、一定程度達成することができた。これは、ICTリテラシーの毎回の授業で実施するタイピングテストの1年次生全員の実データを活用する身近なテーマを設定したこと、自分で実施したアンケートをもとにした分析、実例をもとにした情報の適切な活用など、主体的に取り組みやすい授業設計を行ったことによるものと考えられる。また授業アンケートでは「講義の例や取り上げるものでは、学生の興味関心のあるものをピックアップしているので、楽しく、わかりやすく授業を受けることができました」などの自由記述を得ている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>必修科目である「ICTリテラシー1」「ICTリテラシー2」では、1クラスのサイズを30人程度に設定し、クラスごとに1名のSAをつけることで、学生が質問しやすい環境を構築している。また、全クラスで統一した授業資料を用い、必要に応じて担当教員間および担当SA間で情報共有することで、統一した内容・水準を維持することを心掛けている。加えて、週1回の担当教員とSAによるミーティングを実施し、そこで出た意見を授業運営に随時反映することで、より「分かりやすい」授業を実施した。</p> <p>また授業アンケートでは、「SAによるサポートがあり、分からないところもすぐに解決することが出来た」「SAのサポートがあり、出来ていないことをすぐに質問することが出来ることがとても良かった」「教員だけでなくSAのサポートがあり、課題などより良いものに出来た」「グループで分からないところを教え合ったり、SAがすぐにかけつけて教えてくれたりした」などの自由記述を得ている。</p>